

Title	社会インフラ業界組織における未来知識共創マネジメントの研究
Author(s)	村田, 尚
Citation	
Issue Date	2025-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/19916">http://hdl.handle.net/10119/19916</a>
Rights	
Description	Supervisor: 白肌 邦生, 先端科学技術研究科, 博士

## 要旨

建設業やプラントエンジニアリング業といった社会インフラ産業は、建設というモノづくりだけでなく、社会インフラとサービスを融合した事業領域の拡大を目指している背景がある。そこで本研究では、未来知識共創マネジメントの方法論として、社会インフラの業界企業で構成される業界組織が技術動向や社会動向の変化を捉えて新産業への事業機会を創出する際に、どのように未来を描いて新たな知識を創造し続けるかを明らかにすることを目的とした。

研究対象とする社会インフラの業界組織では、協働的に多様な社会インフラの未来を検討していくために、(i)思いの共有、(ii)現場での知識獲得と共通体験、(iii)獲得した知識によるロードマップ作成、(iv)報告書作成、を特長とした知識共創志向ロードマッピング手法を開発した。本手法を適用した3回のロードマッピング活動に対して、本研究では研究1として手法の評価を、研究2として手法の継続性を誘発させるための評価観点の抽出を行った。

その結果、研究1ではこの手法が組織的に知識創造を実施しつつ先見性を獲得する有効な手法であることを評価した。研究2では、ロードマッピング活動を継続させるためには、過去のロードマッピング活動の結果の内省や調査した対象の時間的变化、新たな社会・技術動向や専門用語への着目を先行要因とする動機づけのプロセスが、ロードマッピング活動の循環を誘発することを明らかにした。

事業計画や製品・サービス開発計画のような計画に関する研究の中でも、新産業への事業機会を創出するための知識創造・知識共有や、そのようなマネジメント活動の継続性に関する研究は十分に無く、アプローチを工夫することで人間の心理を変化させて、能動的に未来志向のマネジメントを継続して実現できるようになることを、本研究では見出した。

## キーワード

社会インフラ、業界組織、組織的知識創造、ロードマッピング、動機づけ